

第2学年 算数科学習指導案

平成21年10月28日(水) 第5校時

指導者 石川 宗美子

1 単元名 かけ算(1)

2 単元の目標

身の回りの事象から乗法で表される場合を進んで探そうとする。(関心・意欲・態度)
同数累加について、もとなる大きさがいくつ分で全部の大きさになるという考え方ができる。(数学的な考え方)
「1つ分の大きさ」や「いくつ分」に着目して乗法の式に表し、総数を求めることができる。(表現・処理)
乗法の意味を理解するとともに、乗法の答えは、同数累加と同じ答えになることが分かる。(知識・理解)

3 指導上の立場

(1) 単元について

これまでに1年生において、ものの個数を数えるとき、2ずつ、5ずつ、10ずつなどいくつかずつまとめたり、2とび、5とびの数え方をしたりしており、数のまとまりを意識して数えることを経験している。これらは同数累加、つまり乗法の考え方そのものである。2年生ではそれらの経験をもとに、実際の場面を通して「1つ分」「いくつ分」を意識して数のまとまりを数える活動を繰り返し行うことにより、乗法の意味について理解できるようにする。

1つ分の大きさが異なる場合の全体の数量は加法で求めるが、同数の場合は「1つ分の大きさ」とその「いくつ分」に着目することによって全体の量をとらえることができることから、(1つ分の大きさ)×(いくつ分)と立式することを理解できるように指導する。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、男子8名、女子12名、計20名である。自分の意見を進んで発表できる児童が多く、全体的には意欲的に取り組んでいるが、教師や友だちの話を落ち着いて聞けなかったり、作業や理解に時間がかかったりする児童もおり、個人差も大きい。

かけ算九九については、以前から見たり聞いたりしているので興味・関心を示している児童が多いが、形式的に九九を唱えたり書いたりしており、意味までは理解できていない。乗法の意味を十分に理解した上で九九の構成が理解できるようにしたい。

(3) 指導観について

単元を通して児童が興味をもって学習に取り組めるように、身の回りの事象から場面を探し、同数のまとまりを意識して数える、1つ分の大きさといくつ分で全体の大きさを言葉に表す、乗法の式に表す、という活動を繰り返し行い、加法よりも簡潔で効率的に総量が求められるという乗法のよさにも気づくようにしたい。

また、乗法の意味の理解を深めるため、与えられたまとまりで1つ分の大きさを決めるのではなく、自分の見方で1つ分の大きさを見つけ乗法の場面を具体物に置き換えたり図に表したりする、乗法の式から場面を絵に表したり問題作りをしたりする活動も取り入れていく。分離量での学習が中心となるが、単元の終わりには連続量にも広げて、乗法の意味を確立していきたい。

本時では、りんごの数とドーナツの数がどのように違っているかに着目する。掲示物の工夫により、視覚的にうったえ、どの数量を「1つ分の大きさ」とし、さらにそれが「いくつ分」であるかをしっかりととらえさせ、同じ数のまとまりがいくつ分という数の見方ができるように指導を進める。

(4) 研究テーマとの関わりについて

本校では、小中一貫教育のテーマとして、「小中学校の連携による生きる力を持った子どもの育成」をあげている。「学力向上」を重点課題とし、わかる授業づくりをめざして取り組んでいるところである。

そこで、単元を通して、児童が少しでも自力解決したり、自分の考えを発表したりするなど意欲的に取り組む手立てとして具体物やワークシートなども活用し、わかる、できる喜びが実感できるようにしたい。

また、学習のきまりを身につけ、考えを自分の言葉で発表したり、友だちの意見を最後まで聞いたりすることの大切さも感じ取らせながら学習を進めたい。

4 指導計画(全8時間)

第一次 かけ算・・・・・・・・・・6時間

第1時 皿にのっているものの数が同数の時は、1皿分の数と皿の数で全体の数を表す。(本時)

第2時 全体の数量を「1つ分の大きさ」と「いくつ分」でとらえる。

乗法の式の表し方とよみ方を理解する。

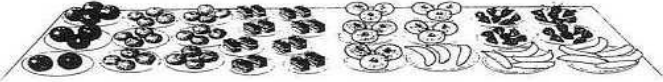
乗法の記号「×」、「かけ算」という用語・意味について理解する。

第3時 「1つ分の大きさ」や「いくつ分」の数に着目し、乗法の式に表す。

第4時 単位量のいくつ分ということを意識して、ブロックを並べ、総数を求める。

- 第5時 1つ分の大きさを決め、乗法の式に表す。
 第6時 連続量について、乗法の式に表す。
 1個分、2個分、3個分のことを、1倍、2倍、3倍ということを知る。
 乗法は同数累加することにより、答えを求めることができることを知る。
 第二次 力だめし・・・・・・・・・・1時間
 第三次 チャレンジ・・・・・・・・・・1時間

5 本時案 (第一次 第1時)

目 標	皿にのっているものの数が同数のときは、1皿分の数と皿の数に注目して全体の数をとらえることができる。	
学習活動	教 師 の 支 援	評価規準・方法等
1 本時の課題をつかむ。 2 学習のめあてを確かめる。	絵を見せながら、数が多いものを簡単に数えるにはどうすればよいかを話題にし、児童が本時の学習に興味をもてるようにする。  めあてを黒板に貼り、一斉に読むことでめあてを意識づける。	
おさらののっているものの数をしらべよう。		
3 自分なりの考えをもち、発表する。 4 他のものについて、「個ずつ 皿分で 個」と言えるかを考える。 5 本時のまとめをする。	比較しやすくするために、数が違うりんごと同じ数ずつあるドーナツの絵を取り出して提示する。 りんごとドーナツでは1皿にのっている数はどのように違うかを考えさせる。 言葉や図で表現できるような、絵を印刷したワークシートを用意し、自分の考えを記入できるようにする。 お皿に違う数ののっているりんごと同じ数ずつののっているドーナツの数を、数える、式で求めるなど自分なりの方法で考え、ワークシートに書かせる。 児童の考えを机間指導の間に把握しておき、発表の際にいろいろな意見が出るように、意図的に指名する。 ドーナツのように同じ数ずつある時は、「3個ずつ 5皿分で15個」と表せることを確認する。 理解できているかどうかを把握するため、ドーナツ以外にも同じ数ずつののっているものを見つけさせ、「個ずつ 皿分で 個」という表し方でワークシートに書かせる。 1皿の数に注目するように声かけをする。 例題として、ケーキの問題を全員で考えた後、みかん、いちごについて自力解決させる。 黒板の絵を見て、同じ数ずつあるものを「個ずつ 皿分で 個」という表し方ができるように、一人一人に言わせる。	同じ数ずつあるものの数を、数のまとまりを意識して求めようとしているか。 同じ数ずつあるものを「個ずつ 皿分で 個」という表し方をすることができたか (ワークシート)